

新年のご挨拶

院長 太田 吉夫



新年あけましておめでとうございます。旧年中は当院の運営につきまして多大なご協力を賜り、誠にありがとうございます。

新病院での診療を開始して、もう少しで2年になります。日本人の死亡原因の上位を占めるがん、脳卒中、心臓病について、関連する複数の診療科・医療技術部門を一体化させたセンターを設置し、機能的な医療の提供に努めています。また、ハイブリッド手術室やロボット支援手術装置「ダヴィンチ」を使用した手術、カテーテルアブレーションによる不整脈治療、PET-CTによる診断や、高精度放射線治療装置「ノバリスTx」を用いた放射線治療など、高度先進医療を提供しています。屋上のヘリポートを活用した救急医療などにも力を注ぎ、今後とも当院の基本理念である「香川県の中核病院として安全・安心な医療を提供し、県民や地域医療機関から信頼される病院」を目指して努力して参ります。

当院の使命である高度急性期医療の提供という役割を十分に果たすためには、他の医療機関で対応可能な紹介状を持たない軽症患者の受診抑制が必要と考えています。このため、外来非紹介患者に対する選定療養費を従来の2160円から5400円に増額しました。さらに、急性期を脱し、症状が安定した患者については、地域の医療機関で継続治療が行えるよう、積極的に逆紹介を進めています。香川県においても、地域医療構想の策定作業が始まっていますが、今後とも医療提供の機能分化、地域の医療機関との連携強化をはかり、地域で効率的な医療が提供できるよう努力して行きます。

今後とも当院との病診・病病連携にご協力頂き、これまで以上に皆様方との連携を深めていくことができますよう、ご指導、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

中央NEWS

病院祭

12/5 を開催しました

「第7回病院祭」を開催いたしました。当日は天気も良く多くの方にご参加いただけました。

市民公開講座では肝臓内科の高口浩一先生による「C型肝炎の内服の最新治療」などの健康に関する講座を3講座実施し、多数の方に受講いただくことができました。また1階ロビーではロビーコンサートをおこない、職員有志による歌と踊りや、よさこい連によるダンスパフォーマンス、高松市木太中学校吹奏楽部による吹奏楽の演奏や、綾歌吹奏楽団有志による金管アンサンブルなどの演奏を入院患者さんはじめ多数の来院された方に楽しんでいただくことができました。ほかに消防車両の展示説明や水消火器的当てコーナーや消防車等のペーパークラフト作成コーナー、バルーンアートの実演など子供さんにも楽しんでいただける企画を用意し、家族連れで多くご参加いただけました。院内の患者さんの憩いの場として、また地域の皆さまとの触れ合いの場として、良いきっかけのひとつとなったのではと感じております。



中央処置室は、新病院開院に伴い設立された新設部署で2年が経過しようとしています。スタッフは室長である大橋医師を中心に看護師9名、受付1名で構成されています。

処置室という名前から処置をする部署と思われる方が多いと思います。現状は、採血・注射・輸血・日帰り手術の対応・検査前の処置・骨髄穿刺検査・腹水穿刺・胸水穿刺・体調不良の外来患者さんの観察などあらゆることを行っています。

忙しさは、曜日によっても異なりますが1日のうち10時から15時の間は、ベッド13床が満床稼働になることが多い状況です。また、外来受診以外の方が急に体調不良になり入ってくることもあります。1日の患者総数は30～40人で1人に関わる時間は個々に差があります。毎週、来られる人もいて本人、家族の不安なども傾聴させて頂き、プチ病棟的な部分もあります。

外来受診された方が、安心して検査、処置を受け安全に終了して帰られるようにスタッフ一同頑張っていきたいと考えています。



中央NEWS

NBC災害対策訓練

11/21 を実施しました

NBCとは、Nuclear（核）・Biological（生物）・Chemical（化学）の頭文字をつなぎ合わせた造語であり、これらに起因して発生した災害を「NBC災害」と総称しています。

当院では、平成25年度にNBC災害対策としてエアース除染テントを購入し、昨年度は屋内で組み立て手順を確認する訓練を実施しました。

今年度は、化学物質汚染を想定し、近隣地域の化学工場の事故によって化学物質汚染が発生し、汚染された傷病者が当院に搬送されるという設定で実際にトリアージエリアに除染テントを設置して実施しました。

《訓練の流れ》

- ①除染テント設営…まず、エアーステントを膨らませます。テントが膨らんだ後、除染用シャワーなどの部品を取り付けて、受入準備完了です。
- ②除染前トリアージ…除染の必要の有無、除染の方法別に傷病者をトリアージします。
- ③除染…乾的除染（立位・臥位）と水除染（立位・臥位）に分けて行います。
- ④除染後トリアージ…除染後トリアージを行い、傷病者の治療優先順位を判断します。

今回は、手順を確認しながらの実施となりましたが、いくつかの課題が確認されました。

今後も各種災害を想定した訓練を実施し、スキルを高めるとともに、その結果をフィードバックすることにより、マニュアルを充実し、災害への対応力を高めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。



便通異常外来開設のお知らせ

2015年12月より、新たな専門外来として、便通異常外来を開設致しました。当外来では「機能的消化管障害による便通異常」の症状改善を目的としております。

対象とする疾患は、画像検査や内視鏡検査などの通常の検査では器質的疾患（腫瘍や炎症性疾患）を指摘できない、いわゆる慢性便秘、慢性下痢、排便困難、過敏性腸症候群（IBS）などの診療を中心にを行います。

「機能的消化管障害」は、有病者が多いと考えられるものの、その病態は十分に解明されておらず、治療に難渋することが多いのが現状だと思われま。

私は2015年9月に、排便機能異常に関して、日本の第一人者である味村俊樹先生（指扇病院排便機能センター長）のもとで、1ヵ月間の研修を受けさせていただく機会がありました。味村先生は、排便機能センターを立ち上げ、便秘、便失禁、排便困難などを中心とした診療をされており、排便機能外来には、全国から多数の患者さんが集まっています。

専門的な検査（大腸通過時間検査、排便造影、直腸肛門機能検査、直腸超音波検査など）を用いて、体系だった診断、病態の把握を行っていました。機能的便秘の場合は、適切な投薬、生活指導、バイオフィードバック療法による排便機能のリハビリなどによる治療を行い、多くの場合、上記の治療で症状の改善を認めていました。

当院における便通異常外来では、機能的消化管障害による便通異常に対して、必要に応じて専門的な検査を行い、未知の部分が多い領域ですが、病態の把握に努め、治療に結び付けたいと考えております。

なお、当外来は、かかりつけ医の先生からの紹介のみの完全予約制とし、症状の改善が認められれば、速やかに紹介元の医療機関へ逆紹介させていただき、残念ながら、症状の改善が認められない場合でも、原則半年間の診療をもって、紹介元の医療機関へ逆紹介させていただく予定です。

さらには、患者さんの紹介だけではなく、慢性便秘、慢性下痢、IBSに対する診療における著効例の経験があれば、ご教授いただければ幸いです。

先生方と協力しつつ、当外来の診療を進めさせていただきますので、何卒よろしく申し上げます。



中央NEWS

ほっと一息やすらぎタイム ミニコンサート

10/30 を開きました

患者サービス向上委員会主催で「ほっと一息やすらぎタイム・院内ミニコンサート（丸亀ギター・マンドリンアンサンブル）」を開催いたしました。

今回は丸亀労災病院の北浦道夫先生（副院長）を中心としたギター・マンドリンのアンサンブルでの演奏をおこなっていただき、観衆も100名ほど大盛況のなか無事コンサートを終える事ができました。「エーデルワイス」や「カタリーナ」などスタンダードな8曲を演奏いただき、最後には聴衆が「瀬戸の花嫁」を唱和し、ライブならではの一体感がみられ、とても良い感じでコンサートが終了できました。



医療セミナー

11/26 を開催しました

本院講堂において、「がん患者さんのリハビリテーション～私たちの取り組み～」と題して、医療セミナーを開催しました。

司会は川上院長補佐、講演はリハビリテーション科の本田部長でした。参加者は医師等57名で、院外からも23名の先生方にご出席いただきました。

今後も、当院における医療を紹介するため、興味ある様々なテーマを取り上げて、皆様のお役にたつ医療セミナーを積極的に開催していく予定です。ぜひご参加ください。



専門的な医療を より良いコンディションで 受けられるように

病 院 理 学 療 法 士 の 仕 事

リハビリテーション部 理学療法科 技師長
安岐 桂子

理学療法科では、新病院になり4つの新規業務を開始しました。

1. 癌などの術前の患者さんが、入院検査説明センターを通して入院前に紹介されるようになりました。入院前に術前指導（排痰などの呼吸療法・下肢の血栓予防・術後の体の動かし方など）を行い、入院までの期間に呼吸機能を高めることで術後の合併症を減らし、術後スムーズに離床できるようにしています。
2. 透析中や通院治療センターで治療中の患者さんに、治療中の時間を有効利用し、筋力や体力低下を予防するための運動や指導を行っています。治療中に運動すると、下肢の痺れや引きつりなどの症状が緩和され、治療後の動きがスムーズになります。
3. クリーンエリア内で過ごす血液内科の患者さんに運動を指導し、筋力や体力低下の予防と心理的ストレスの軽減を図ります。患者さんが活動性を落とさず日常生活が送れるように支援しています。
4. チームでの心臓リハビリテーションを開始しました。安全な運動の方法を指導すると同時に、生活習慣や服薬なども含めて包括的に患者さんを指導しています。再発を予防し生命予後を延ばすとともに、QOL（生活の質）の向上を保ちます。

理学療法科に紹介される患者さんの疾患は多岐にわたり、担当する理学療法士にも専門的な知識が要求されます。理学療法士は、患者さんが専門的な医療をより良いコンディションで受けられるようにサポートしています。



医師の人事

異 動

転入

(10月1日付)



多賀 茂樹

産婦人科

岡山大学出身
(昭和59年卒)
趣味／ギター

地域医療に貢献できるよう
努力していきたいと思っています。



松原 侑子

産婦人科

岡山大学出身
(平成25年卒)
趣味／買い物、旅行

女性の生涯に寄り添える医療を目指して
います。よろしくお願いいたします。



近藤 淳

研修医

香川大学出身
(平成26年卒)
趣味／ドライブ、
ラジオドラマを聴く

患者さんに「病院に来てよかった」と
思ってもらえるようがんばります。

(11月1日付)



竹内 亮

脳神経外科

鳥取大学出身
(平成8年卒)

微力ではありますが、地域に貢献
すべく診療を行ってまいります。
宜しくお願い致します。



松村 光

脳神経外科

香川大学出身
(平成24年卒)
趣味／車、弓道

地域医療に微力ながらも尽力させて
頂きます。

転出

(12月31日付)

- 本郷 淳司 (産婦人科)
- 坂本あすな (研修医)